# NIE実践報告

1．タイトル：☆考える力を深めよう！　新聞を活用した授業実践を通して

2．学校名

兵庫県立星陵高等学校

3．実践者名（代表者名）

高田　恭一

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合的な学習の時間「社会問題研究」3年生 11人

6．単元（本時の学習課題）名

新聞記事を活用した社会問題の考察・発表

7．目標（狙い）

新聞記事から各自が興味・関心をもつ題材を選んでテーマを設定し、関連する新聞記事や他紙の新聞記事等を比較したり、インターネットや文献の調査を行って調査・考察した結果を発表する。

8．評価の視点

テーマの設定の仕方、調査・研究の観点や方法、論旨の明確さとまとめ方、プレゼンテーションの技術(表現力、伝達の仕方や工夫)について相互評価を5段階で行い、さらに文章表記の評価を付加する。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

総合的な学習の時間の一講座として展開。年間20回の授業時間のうち、発表機会4時間、調査研究各4時間、外部講師による講話2時間、その事前授業と事後授業を各2時間行った。本時は発表1回目の事後授業。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

(1)各自が調査した結果を発表(一人約5分)する。授業選択生徒数は11人であるが、発表後生徒による相互評価を行った後、担当教師からのコメントも行うため、2時間の授業を配当している。

(2)生徒の相互評価は5段階で行う。具体的な指標として「態度」「声の大きさ」「目線」「工夫」「ユニークさ」「テーマの着想」「まとめ方」について評価させた。また、各人が印象に残った点を発表者にフィードバックするために、評価者独自の評価項目を作成できるようにした。「テーマの身近さ」「自分にとってためになったかどうか」等、高校生らしい評価項目を独自に設定する生徒もいた。担当者としては、相互評価のポイントとして、発表に対して辛辣に厳しい評価を行うべきであること、しかし必ず建設的な意見であること、自分の発表に生かすことができる評価を行うようにと指摘した。結果的に、発表者を気遣った建設的な意見ばかりであり、評価に対する考え方を教えることが出来た。それぞれが大変丁寧に発表や評価に取り組み、少人数の講座の良さである和やかさの中でプレゼンテーション技術の向上を図ることが出来た。当日の発表テーマは以下の通り。

「FOREVER21に代表されるファストファッション」「摂食障害」「ネット社会と中高生」「村上春樹」「高まる年金への不安」「甲子園球場改築」「新型インフルエンザ」「ミツバチの大量死」

11．児童・生徒の反応、感想・意見

相互の発表を通して、問題意識の差を感じることが出来た。全体を通して、プレゼンテーションの経験の重要性を痛感したようである。失敗を繰り返しながら、発表を行うたびに良い発表になると手ごたえを感じていた。

12．成果と課題

日を追うにつれて、進学に向けた受験勉強に意識が移る3年生であるが、プレゼンテーションの楽しさを実感できた授業であった。基本的な知識や学力を身に付けることの大切さは、大学入試に合格するという目的だけのためではないと納得した様子であった。今後は、こうした手法を各教科で共有しながら、教科を横断的に取り組みたいと考える。新聞記事という共通の素材を、各教科が気軽に活用しながら物事を考える姿勢を養成したいと思う。